

## 市長の窓

しげ のぶ  
滋宣の



イラスト  
小熊眞二さん

ほうちゅう かん あんちゅう めい

## “忙中閑あり暗中明あり”

うすもの  
～ 羅 ～

その 45

ろ しや あかしちぢみ じょうふ すきあや  
絹、紗、明石縮、上布、透綾など、薄く織った夏用の織物のことです。万葉の時代から「綾羅」「軽羅」「薄衣」などという言葉で、歌に詠まれています。

夏の外出着に用いられますが、薄く透けた感じが涼しげで、特に女性が羅を着た姿は楚々とした美しさと風情があります。

見るからに軽いので、「蝉の羽衣」「蝉の羽」などという表現もされます。どれも美しい言葉ですね。

夏に和服というと聞いただけでも暑い感じですが、羅は通気性もよく、また薄くて地質が透けて見えるために、身の動きや風によって織り目が揺れて、流れを変え、涼感が漂います。

ちなみに「羅」と書いて「うすもの」と読ませますが、これは当て字で、漢字そのものは薄い絹の意味です。

羅や人悲しませ恋をして  
(鈴木 真砂女)

能代市長 齊藤 滋宣



6月14日、のしる逸品デーを主催する能代逸品会のTシャツを着てメンバーと記念撮影しました。